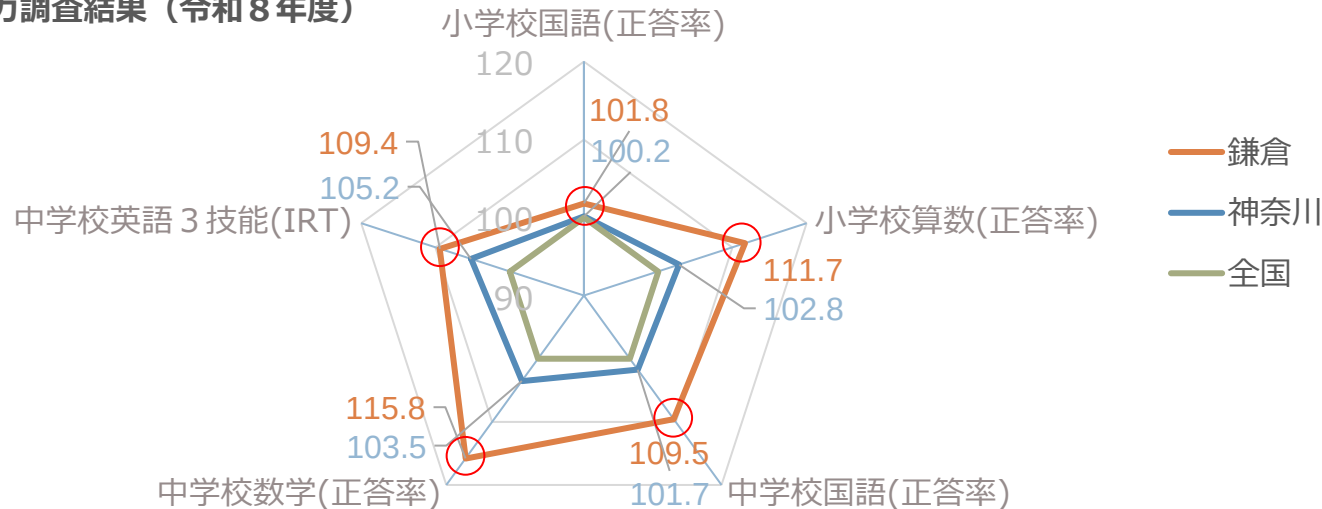


教科別のレーダーチャート

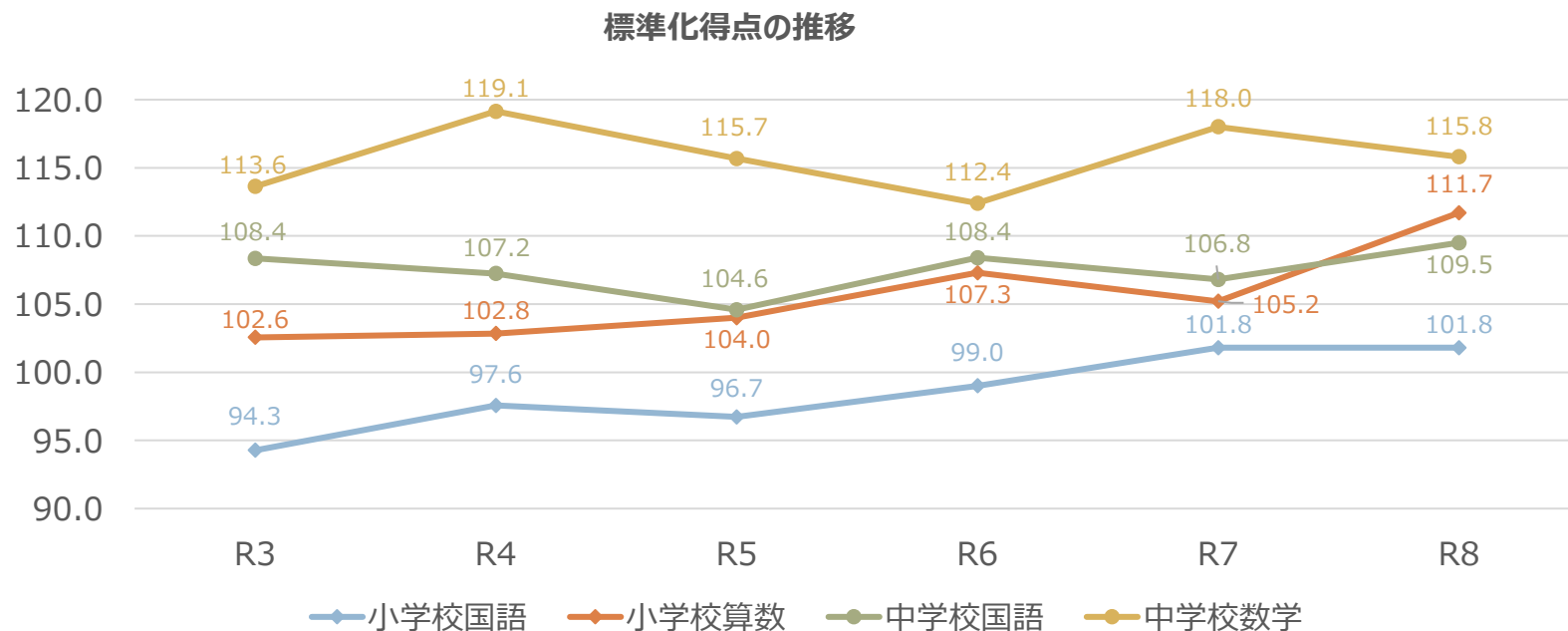
- 鎌倉市の児童生徒の学力は、全国・神奈川県に比べすべての教科が高い水準にある。
特に算数、数学において非常に高い結果となった。

教科別全国学力調査結果（令和8年度）



標準化得点(全国平均を100とした場合の鎌倉市の児童生徒の得点)の推移

- 中学校では、高い水準を維持しており、小学校では、右肩上がりの傾向が見られる。バランスのよい基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が継続的に図られていると考えられる。

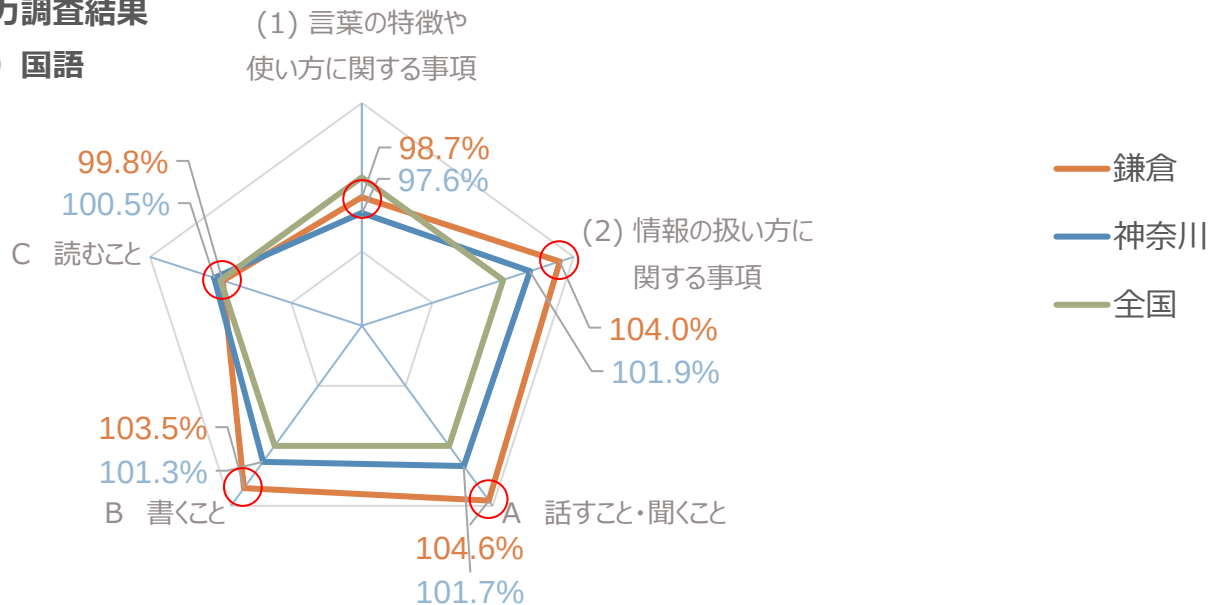


小学校国語のレーダーチャート

- 鎌倉市の小学生は全国と比べ、(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項の分野で、また全国・神奈川県と比べ、C読むことの分野で、やや低い値となった。

教科別全国学力調査結果

(令和8年度) 国語

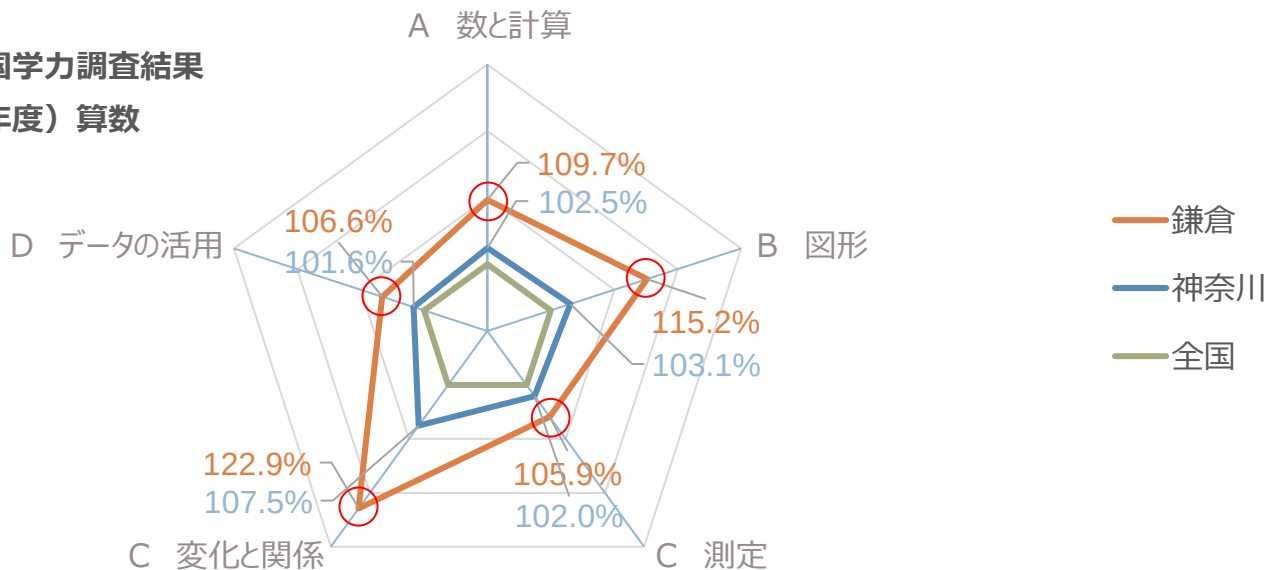


R8 全国学力・学習状況調査から（全国の点数を100とした場合の鎌倉市と神奈川県の値を記載）

小学校算数のレーダーチャート

- 鎌倉市の小学生は全国・神奈川県と比較して、すべての分野で得点が高い。
特に、B 図形、C 変化と関係の分野において、非常に高い値となった。

教科別全国学力調査結果
(令和8年度) 算数



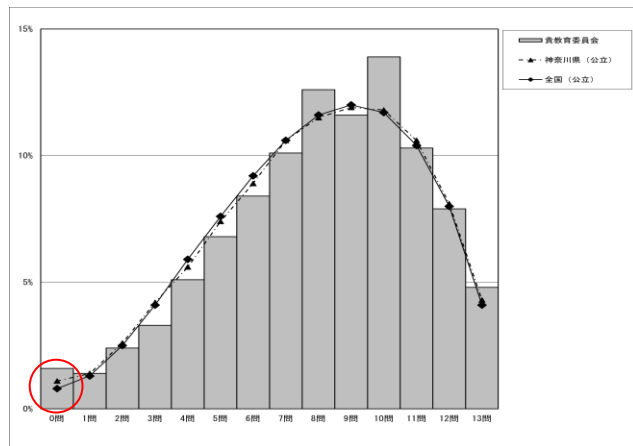
得点分布からの分析（小学校）

- 鎌倉市の小学生は算数において高得点者の割合が高く、低得点者の割合が低い。
国語では、正答数が0問の児童の割合がやや高いことから、つまずきが見られる児童に対するきめ細やかな指導が求められる。

国語

正答数分布グラフ

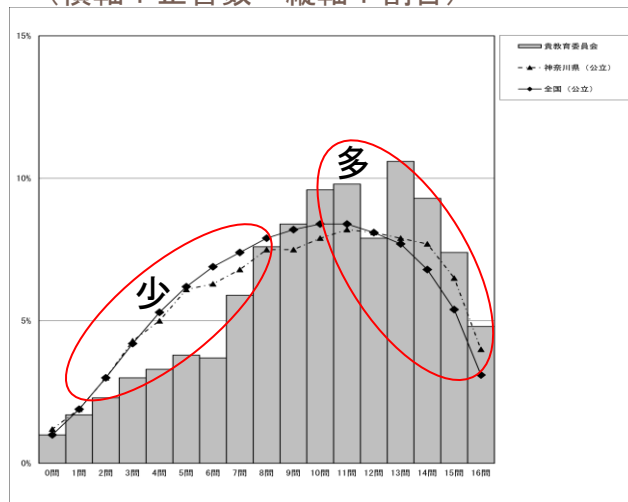
（横軸：正答数 縦軸：割合）



算数

正答数分布グラフ

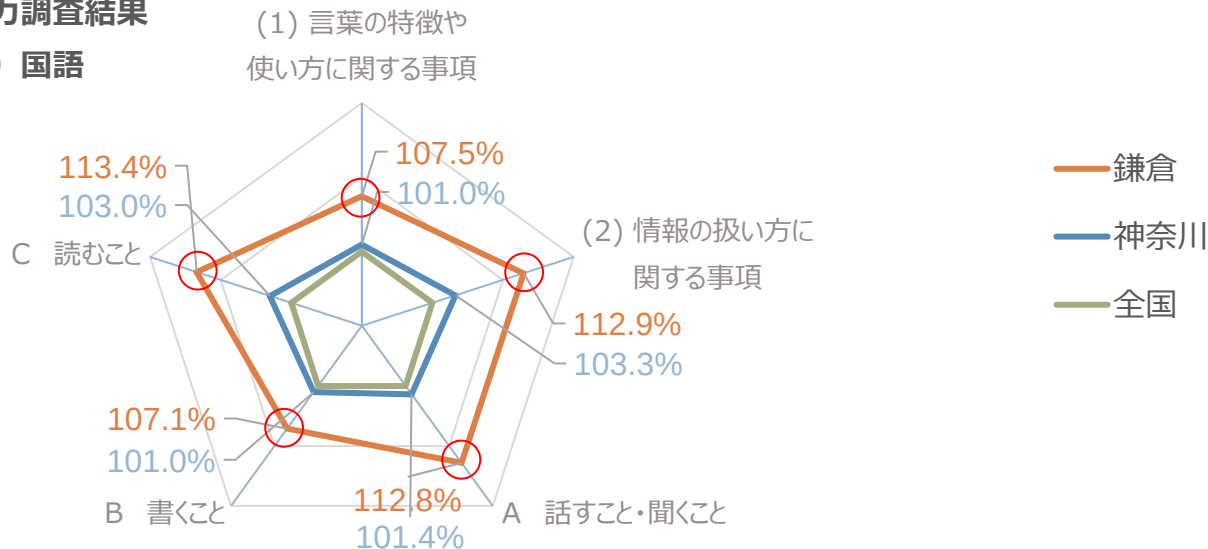
（横軸：正答数 縦軸：割合）



中学校国語のレーダーチャート

- 鎌倉市の中学生は全国・神奈川県と比較して、すべての分野で得点が高い。
各分野においてバランスよく学習に取り組んでいる。

教科別全国学力調査結果 (令和8年度) 国語

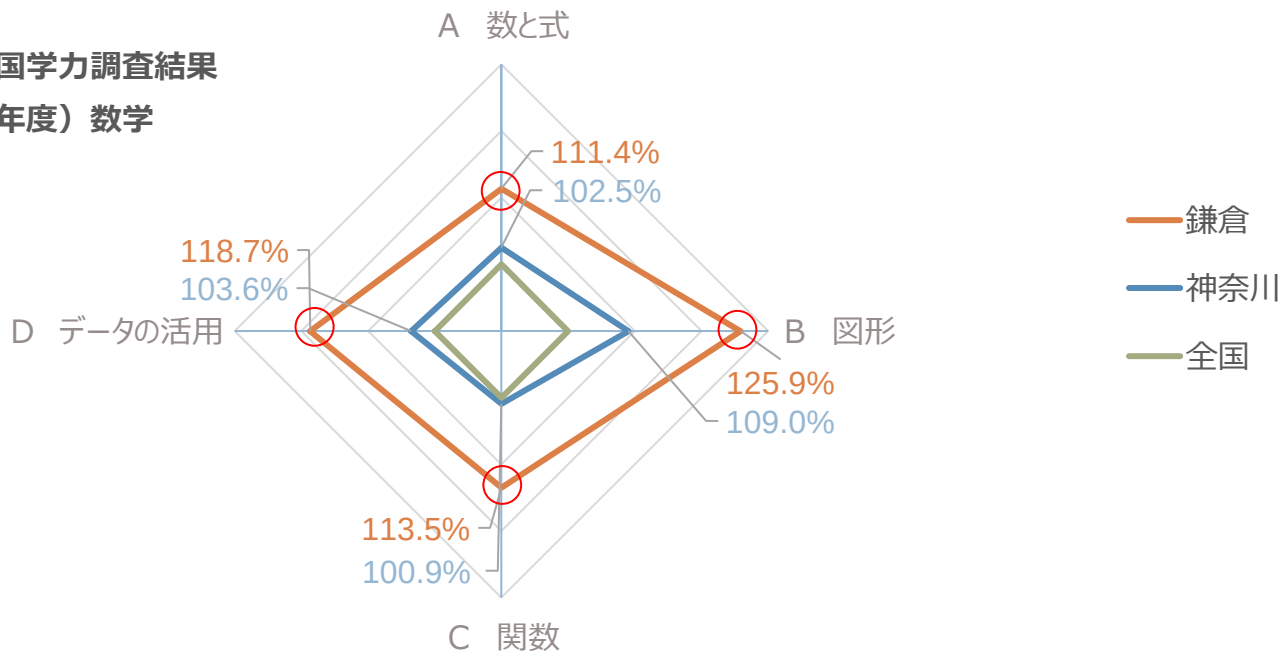


R8 全国学力・学習状況調査から（全国の点数を100とした場合の鎌倉市と神奈川県の値を記載）

中学校数学のレーダーチャート

- 鎌倉市の中学生は全国・神奈川県と比較して、すべての分野で得点が高い。特に、B 図形、C 関数の分野において、非常に高い値となった。

教科別全国学力調査結果
(令和8年度) 数学

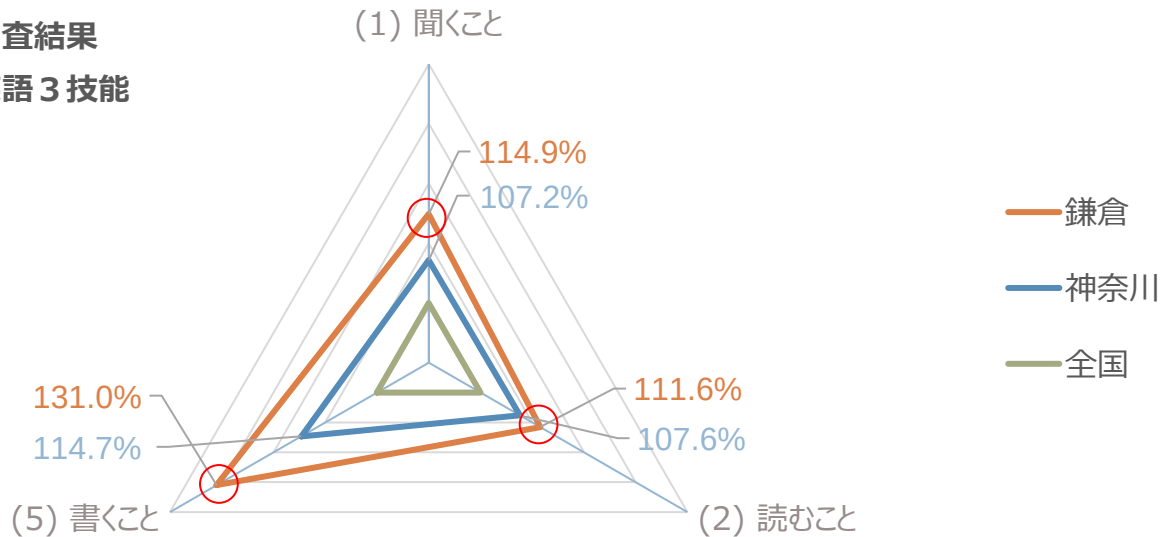


R8 全国学力・学習状況調査から（全国の点数を100とした場合の鎌倉市と神奈川県を記載）

中学校英語 3 技能のレーダーチャート

- 鎌倉市の中学生は全国・神奈川県と比較して、すべての分野で得点が高い。特に、(5)書くことの分野において、非常に高い値となった。

教科別全国学力調査結果
(令和8年度) 英語3技能



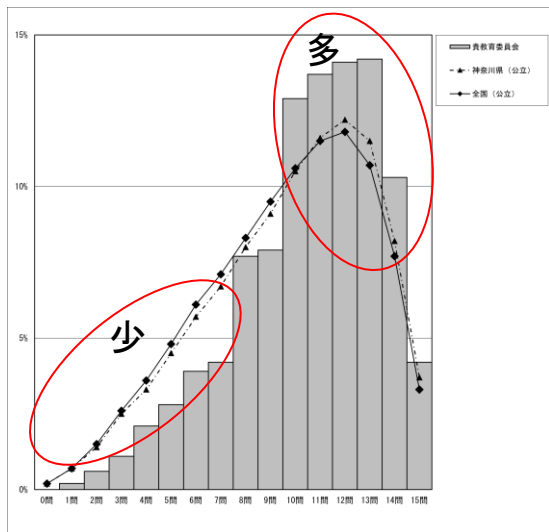
得点分布からの分析（中学校）

- 鎌倉市の中学生はすべての教科において高得点者の割合が高く、低得点者の割合が低い。学力の定着の度合いが高いことが窺える。

国語

正答数分布グラフ

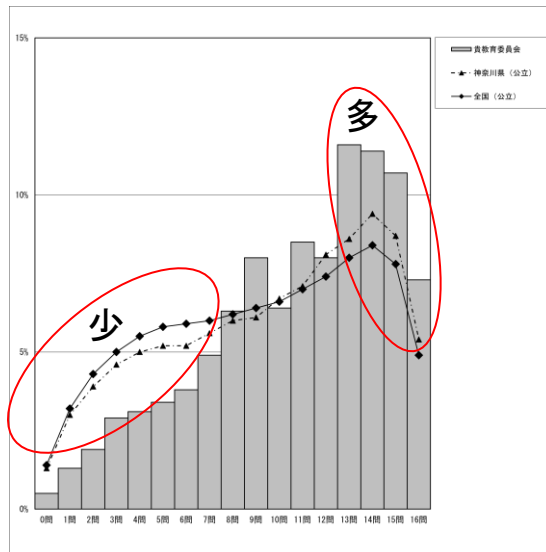
（横軸：正答数 縦軸：割合）



数学

正答数分布グラフ

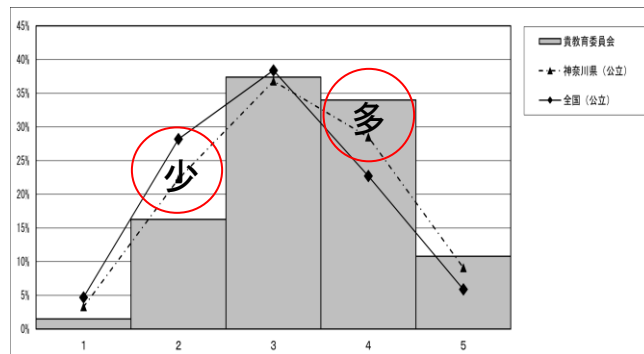
（横軸：正答数 縦軸：割合）



英語 3 技能

IRTバンド分布グラフ

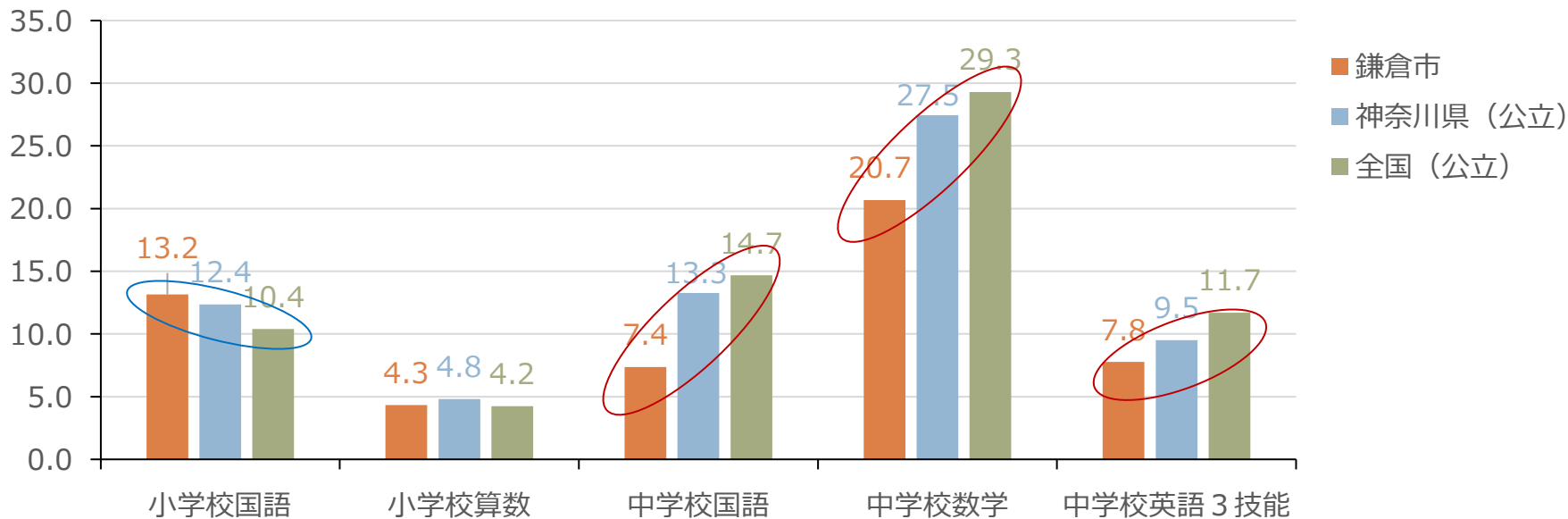
（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



活用問題における無回答率の状況

- 小学校国語の無回答率は全国・神奈川県に比べやや高いものの、中学校はすべての教科で無回答率が低くなっている。引き続き、回答への見通しが持てるよう、条件を整理して論理的に考える力が高まるよう指導していくことが大切である。

記述式問題における無回答率の割合（％）



R8 全国学力・学習状況調査から

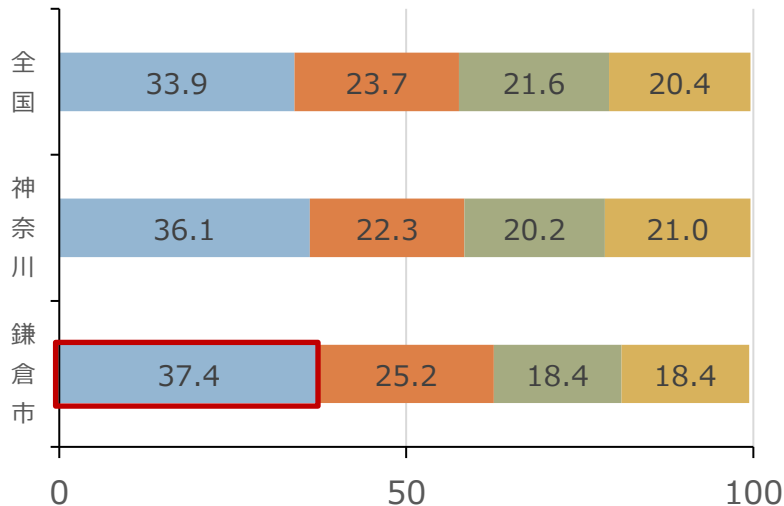
勉強が「好き」と答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童の割合は、国語・算数ともに全国・神奈川県と比較してやや高い。

国語を好きと回答した割合（％）



算数を好きと回答した割合（％）

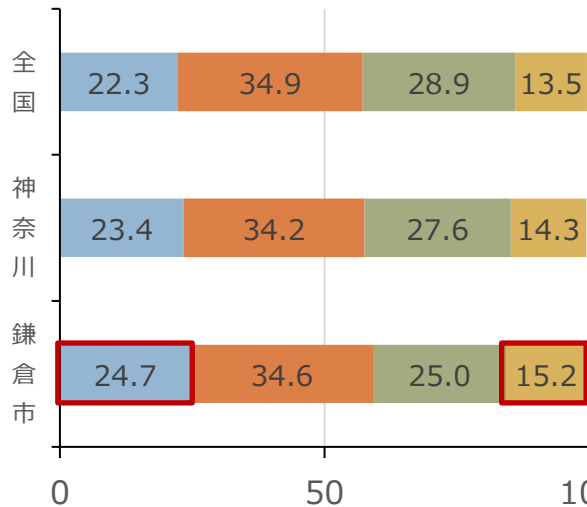


■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかという当てはまらない ■ 当てはまらない

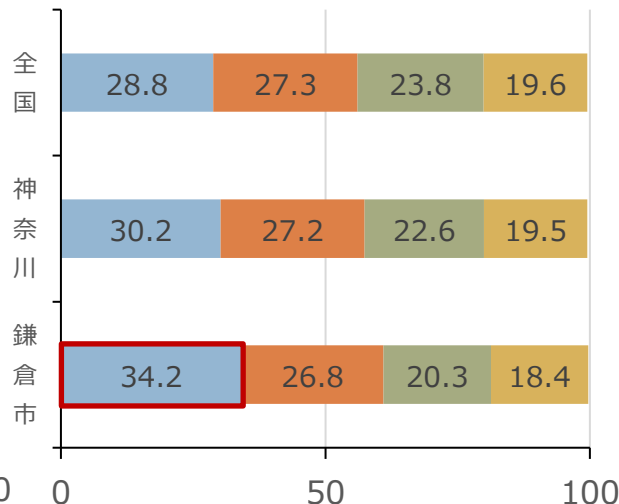
勉強が「好き」と答える子ども

- 「当てはまる」と回答した生徒の割合は、すべての教科で全国・神奈川県と比較してやや高い。一方で、国語において「当てはまらない」と回答した生徒の割合が全国・神奈川県と比較してやや高い。

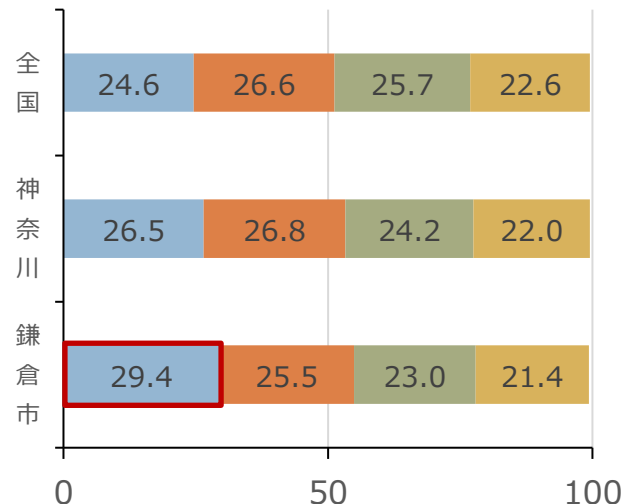
国語を好きと回答した割合（％）



数学を好きと回答した割合（％）



英語を好きと回答した割合（％）

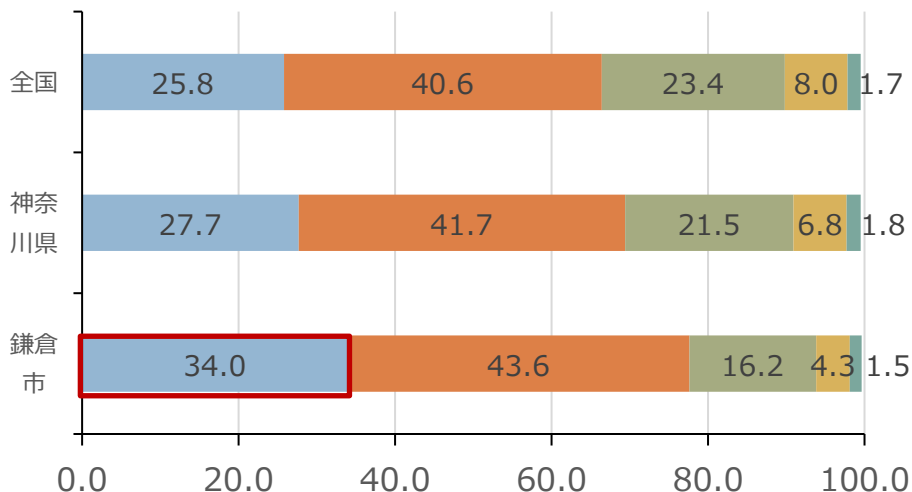


■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかという当てはまらない ■ 当てはまらない

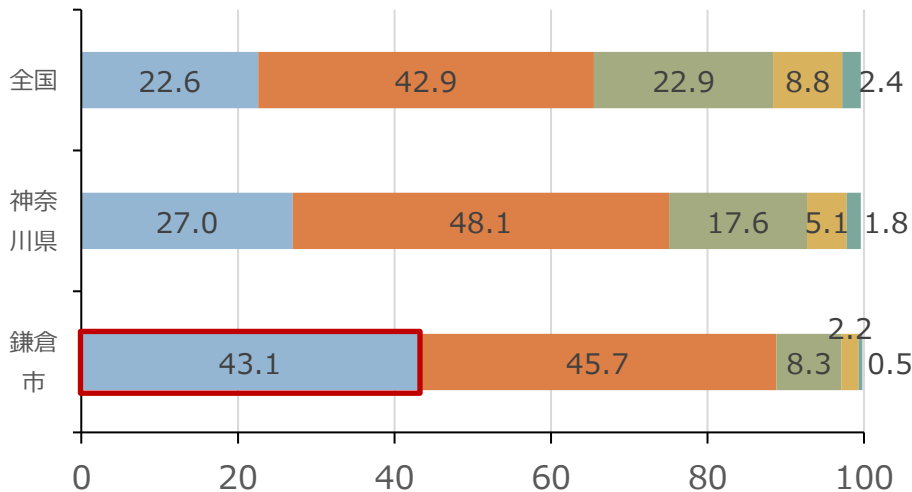
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の状況①

- 小・中学生ともに全国・神奈川県と比較して「当てはまる」と回答した割合が高い。子どもが目的意識や相手意識をもち、課題解決に至る試行錯誤の過程を教員が重視することが大切である。

自分の考えを発表する機会では、自分の考えが
うまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを
工夫して発表していたと思いますか（小学生）（%）



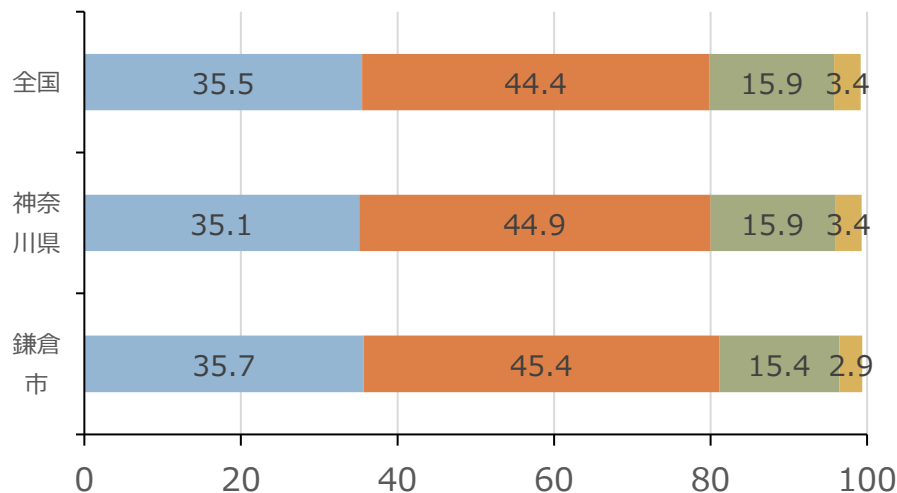
自分の考えを発表する機会では、自分の考えが
うまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを
工夫して発表していたと思いますか（中学生）（%）



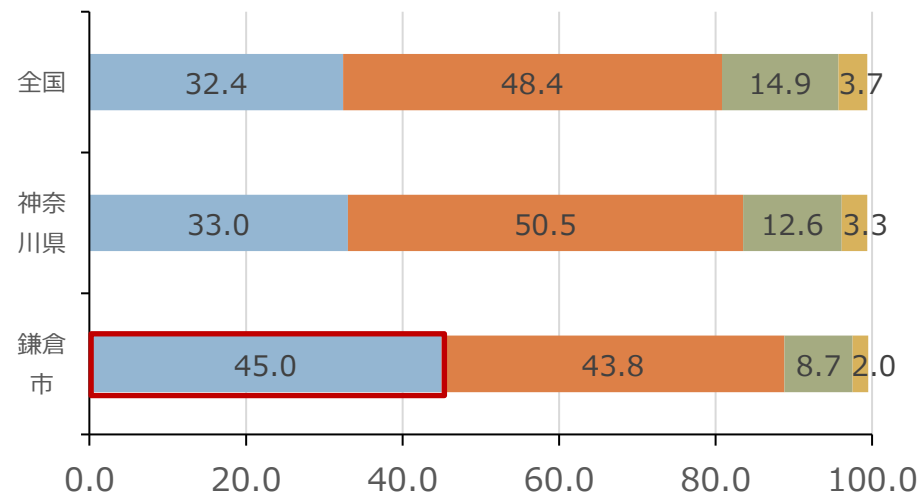
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の状況②

- 中学生では全国・神奈川県と比較して「当てはまる」と回答した割合が高い。自己選択・自己決定の度合いを高め、探究的な学び、深い学びにつなげていくことが大切である。

総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（小学生）（%）



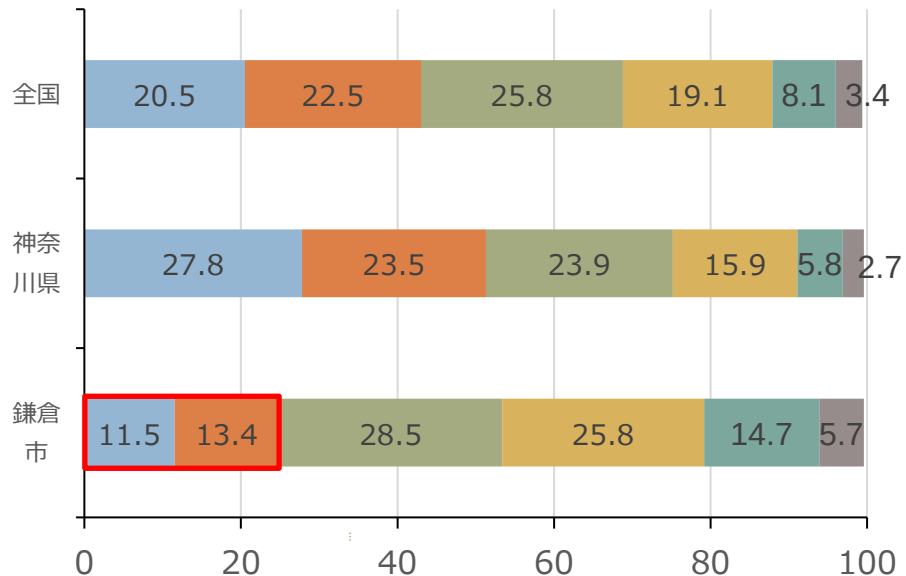
総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（中学生）（%）



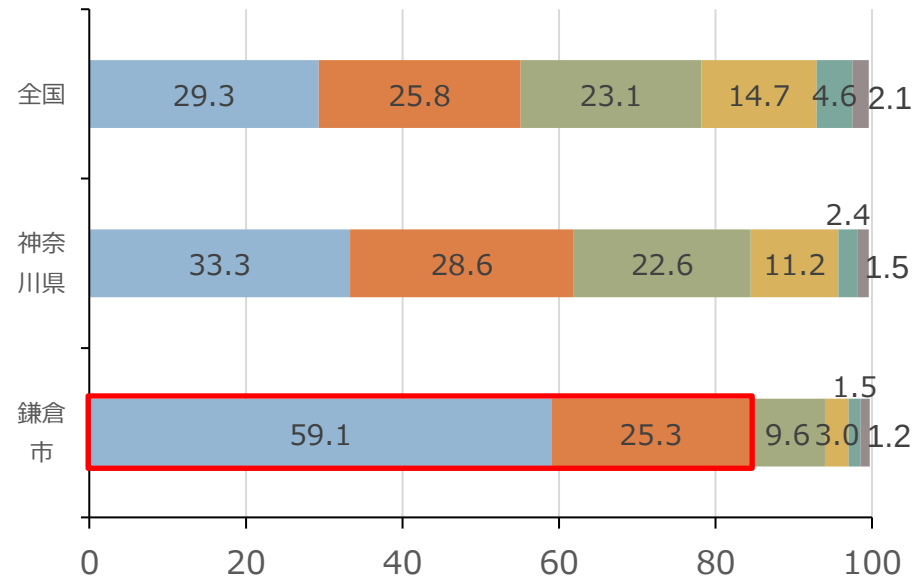
授業におけるICT活用の状況（子ども視点）

- 小学校では「ほぼ毎日ICTを活用する」と回答した割合が全国・神奈川県に比べ低い。一方、中学校では8割を超え、積極的に授業で活用されていることが窺える。

小学校の授業におけるICT活用の状況（％）



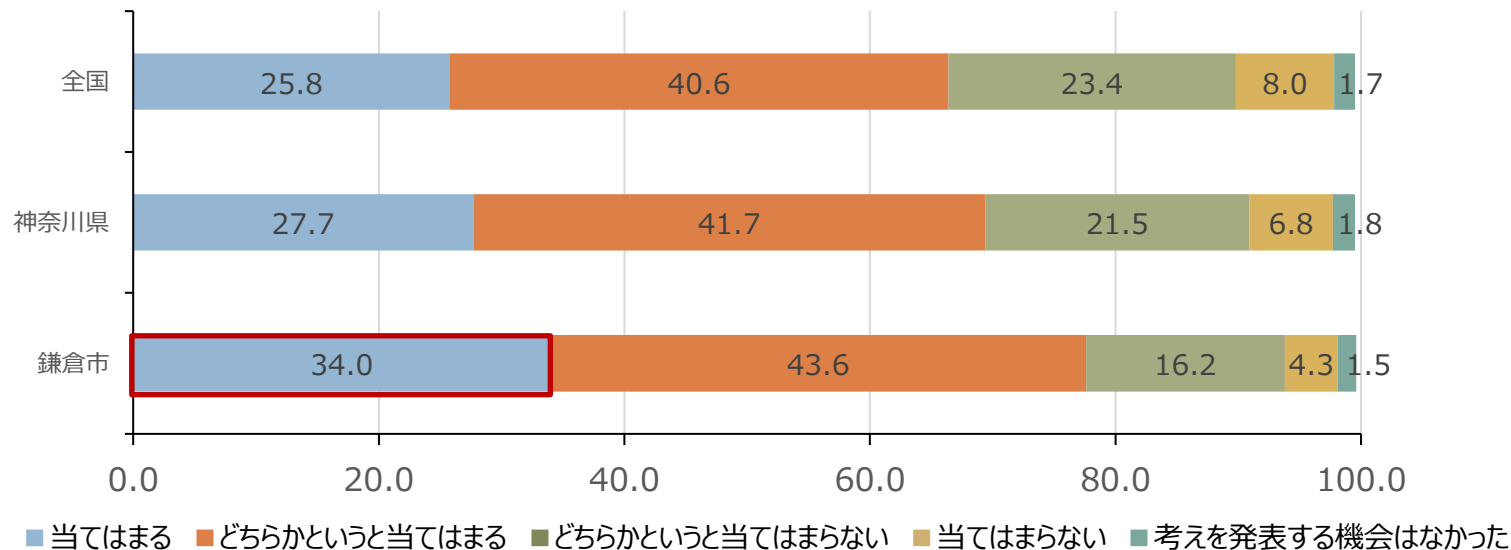
中学校の授業におけるICT活用の状況（％）



「資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と答える子ども

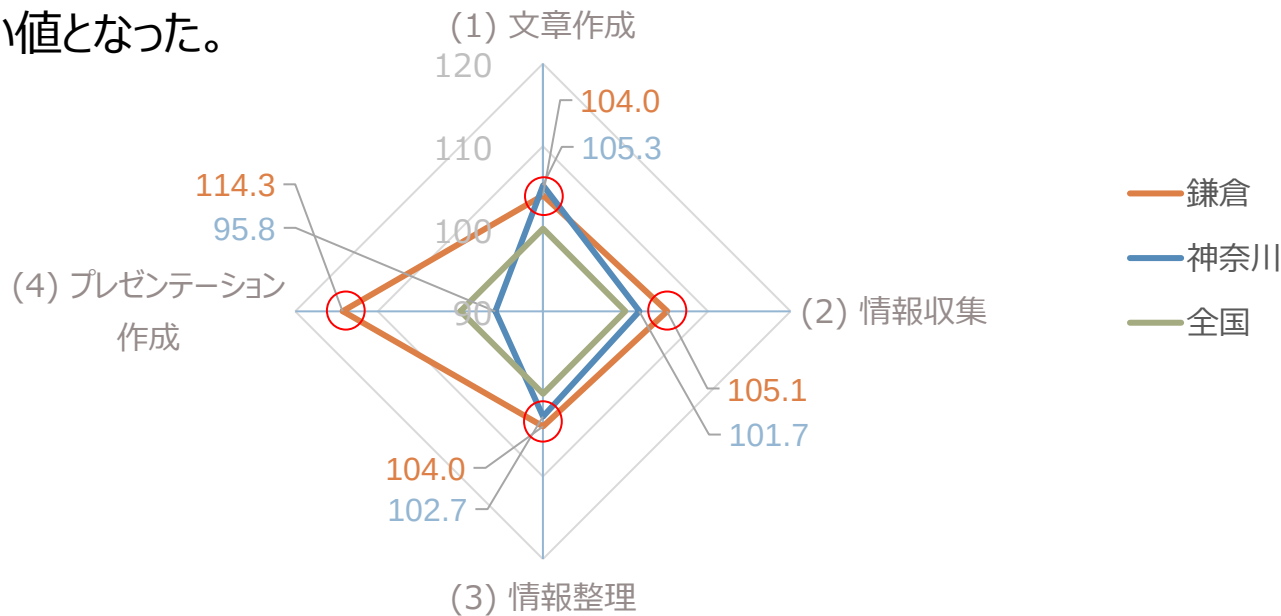
- 「当てはまる」と回答した児童の割合は全国・神奈川県と高い結果となった。自分の考えが伝わるよう、子どもが相手意識をもって課題と向き合えるようにすることが大切である。

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童の割合（％）



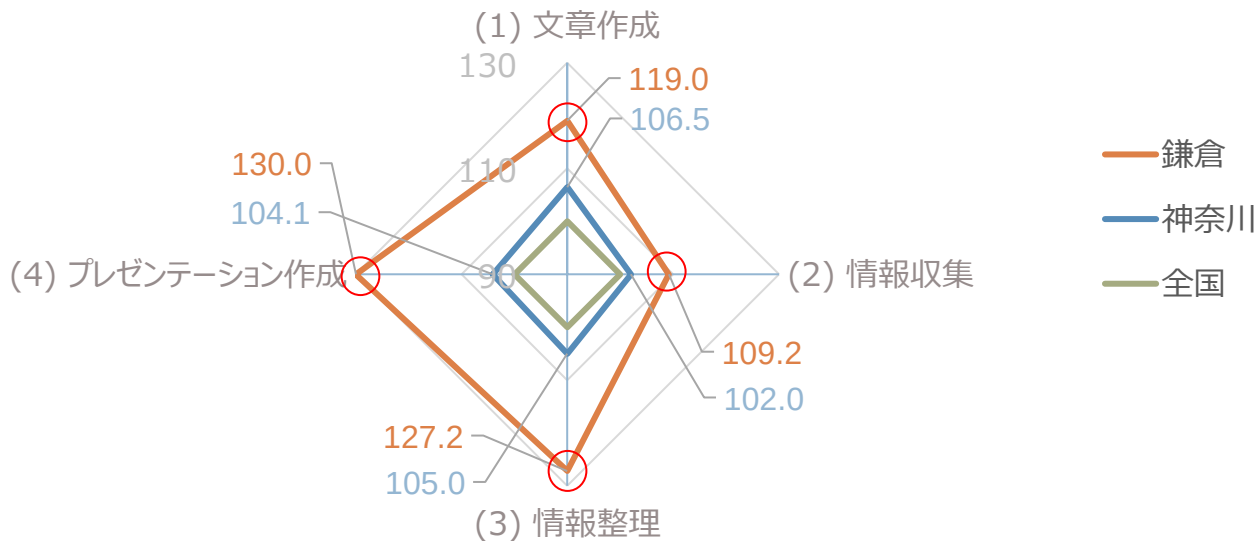
ICT活用能力のレーダーチャート（子ども視点）

- ICT活用能力の項目における「できると思うか」に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は、神奈川県と比べ（1）文章作成の分野でやや下回ったものの、その他3つの分野で全国・神奈川県を上回る結果となった。特に、（4）プレゼンテーションの分野は、非常に高い値となった。



ICT活用能力のレーダーチャート（子ども視点）

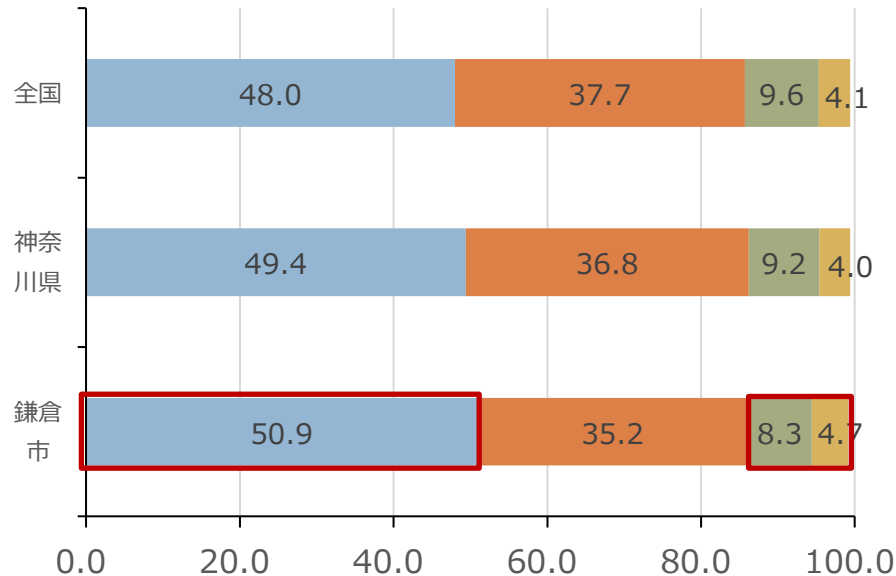
- ICT活用能力の項目における「できると思うか」に対して、「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国・神奈川県と比べすべての分野で上回った。特に、（3）情報整理、（4）プレゼンテーションの分野は、非常に高い値となった。



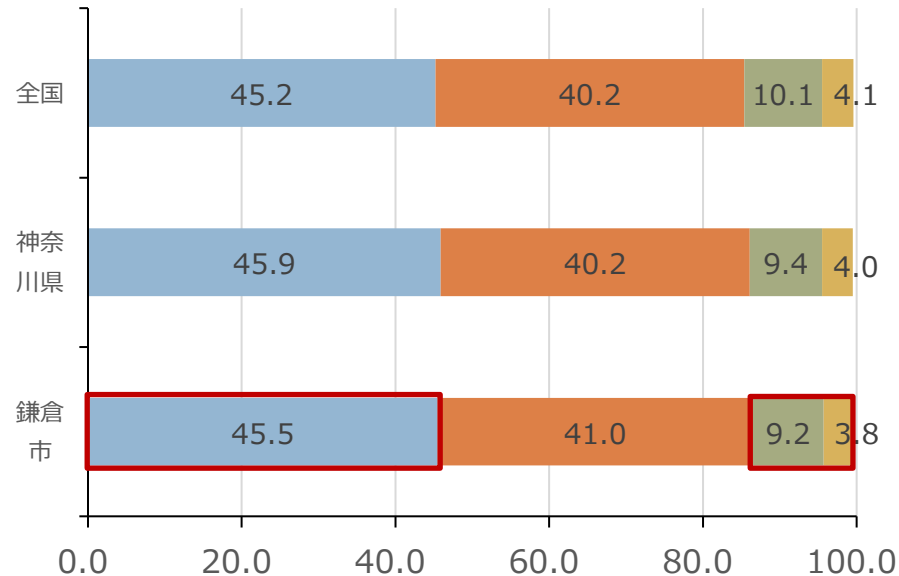
学校に行くのは楽しいと答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国・神奈川県と比較して同程度の割合となった。一方で、「当てはまらない」「どちらかという当てはまらない」と回答した児童生徒も1割以上いることから、一人ひとりの見取りをさらに充実させていく必要がある。

楽しいと回答した児童の割合（％）（小学生）



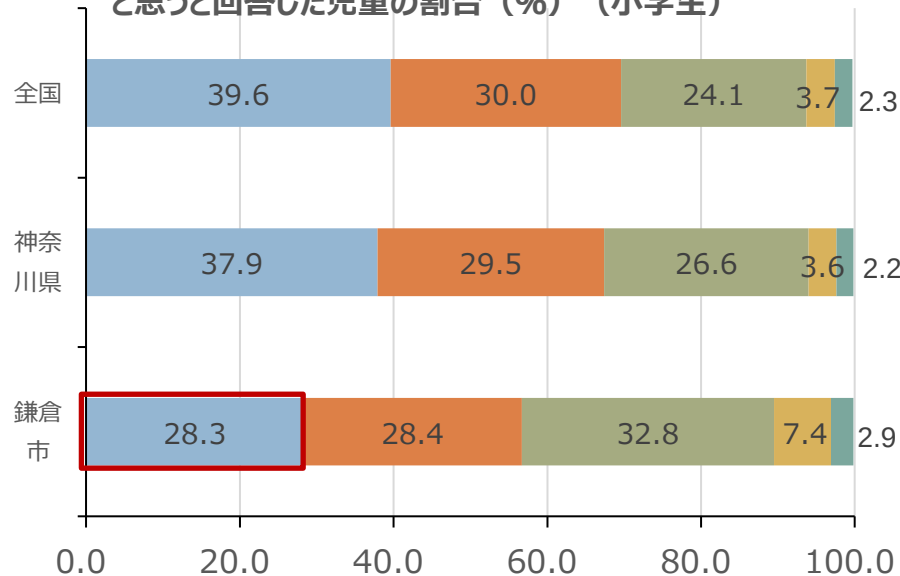
楽しいと回答した生徒の割合（％）（中学生）



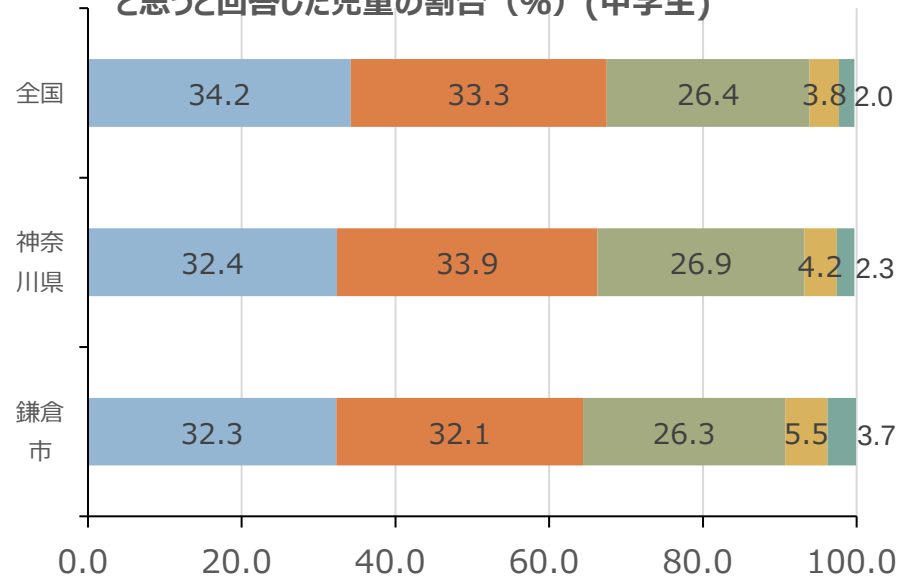
人と違う意見を言っても否定されないと答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国・神奈川県と比較して顕著に低い。
心理的安全性を高め、多様性の包摂につなげていくことが大切である。

あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されない
と思うと回答した児童の割合 (%) (小学生)

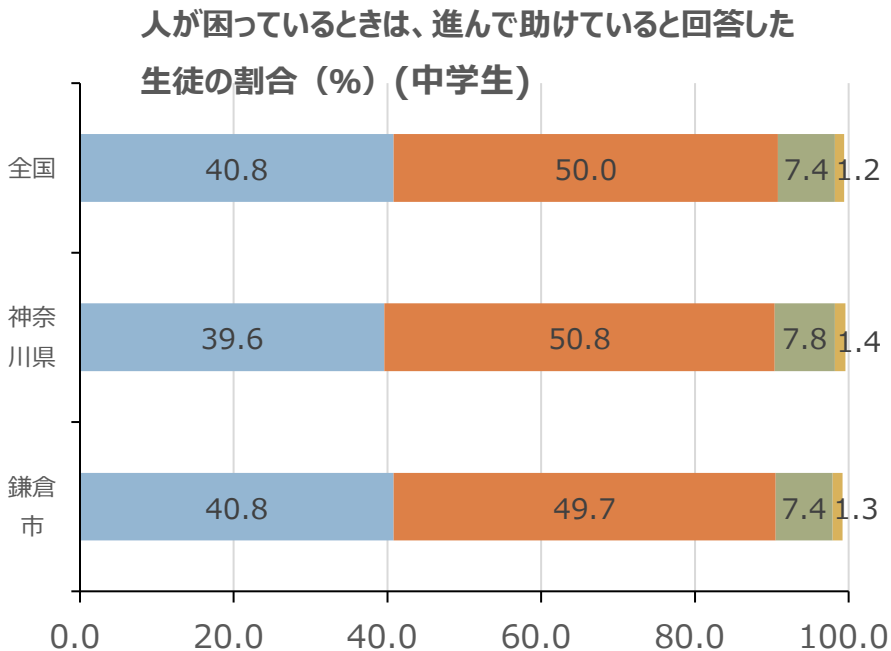
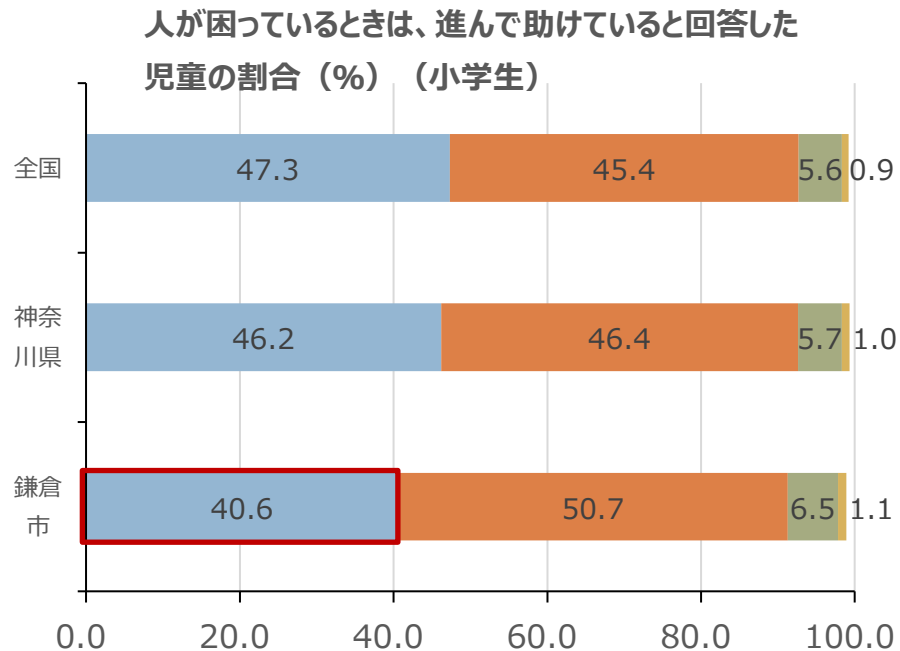


あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されない
と思うと回答した児童の割合 (%) (中学生)



人が困っているときは、進んで助けたいと答える子ども

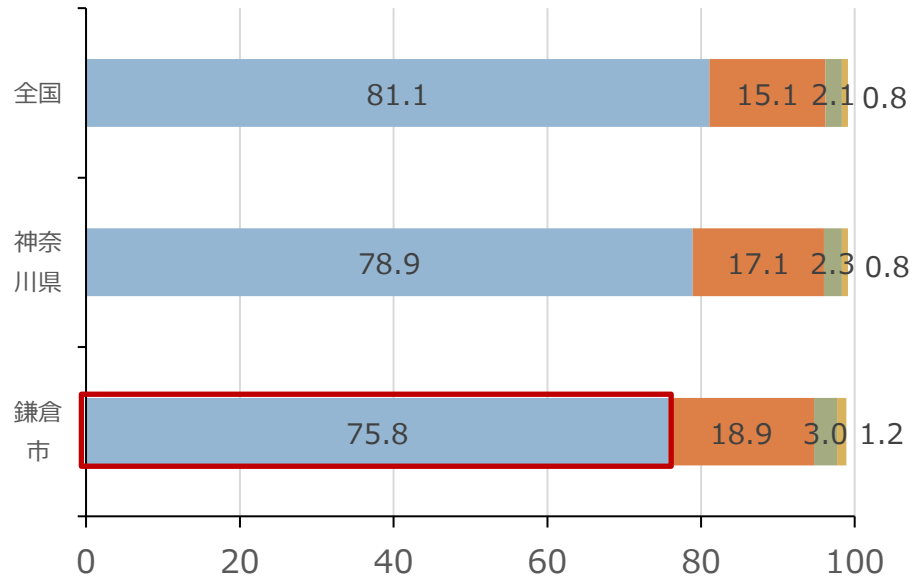
- 「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国・神奈川県と比較して低い。利他行動を価値付け、互恵的な関係性の構築につなげていくことが大切である。



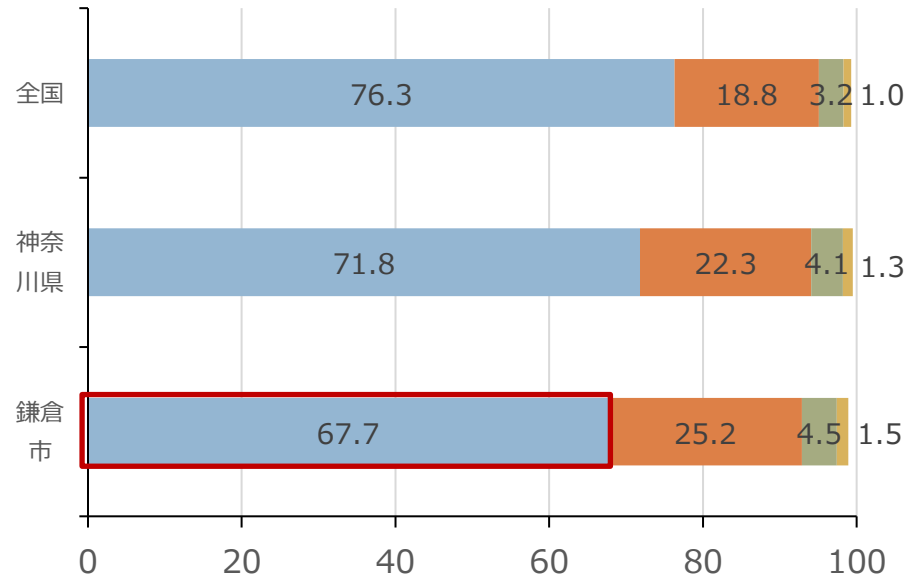
いじめはどんな理由があってもいけないと答える子ども

- 小・中学校ともに、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国・神奈川県と比較して低い。いじめの根絶に向けて児童生徒が自ら気付き行動できるよう、人権や思いやり等に関する指導をさらに丁寧に行っていく必要がある。

いけないと回答した児童の割合（％）（小学生）



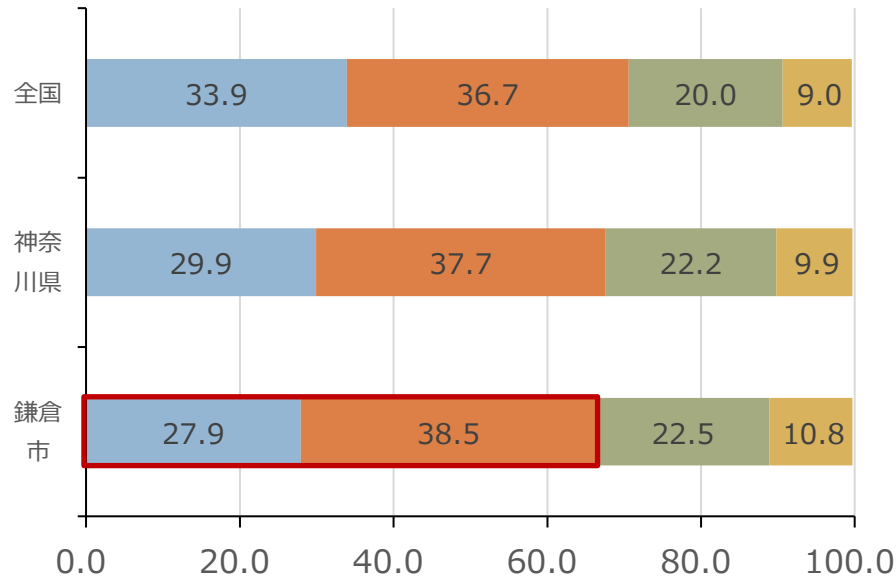
いけないと回答した生徒の割合（％）（中学生）



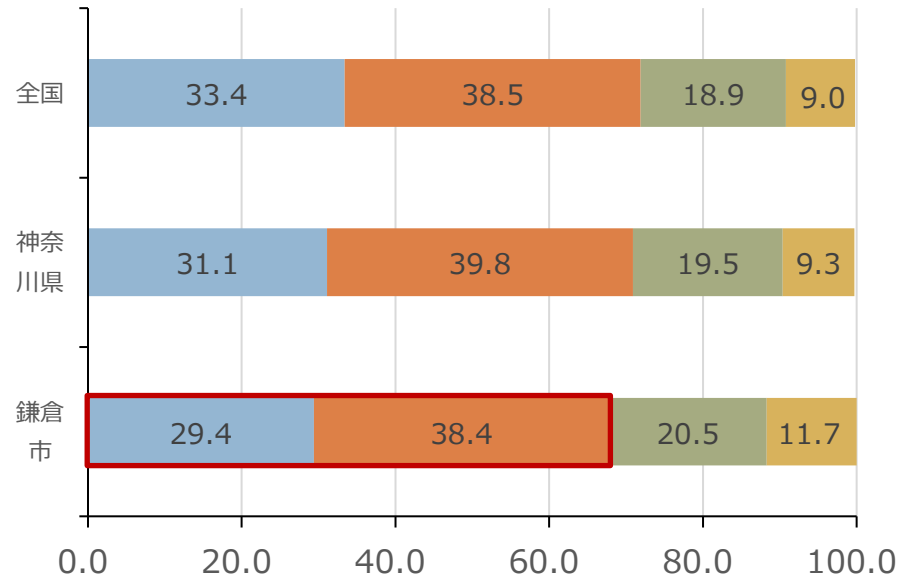
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答える子ども

- 「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国・神奈川県と比較してやや低く、昨年度と同程度の割合に留まった。
引き続き、子どもと向き合う時間の確保や支援体制の改善に努める。

できると回答した児童の割合（％）（小学生）



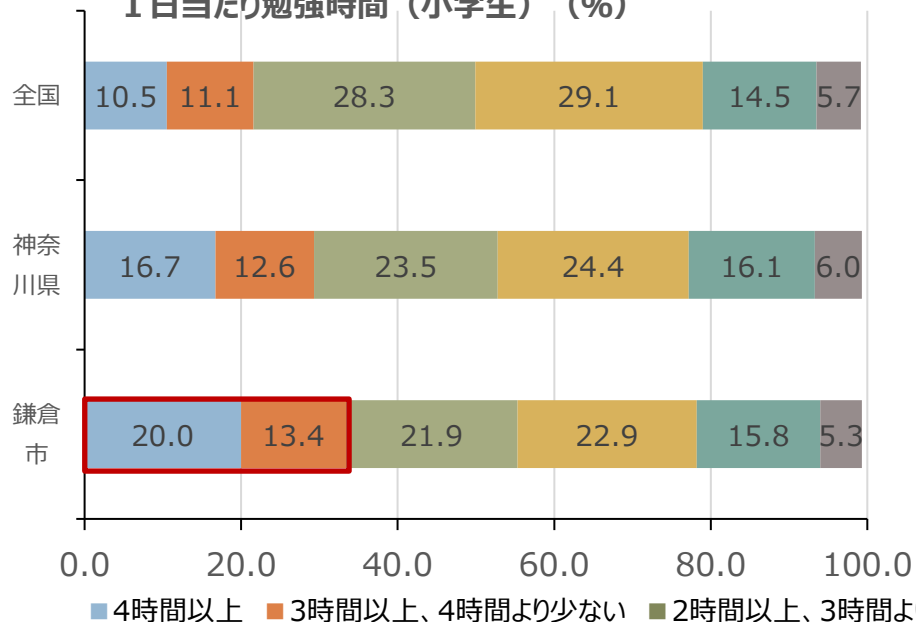
できると回答した生徒の割合（％）（中学生）



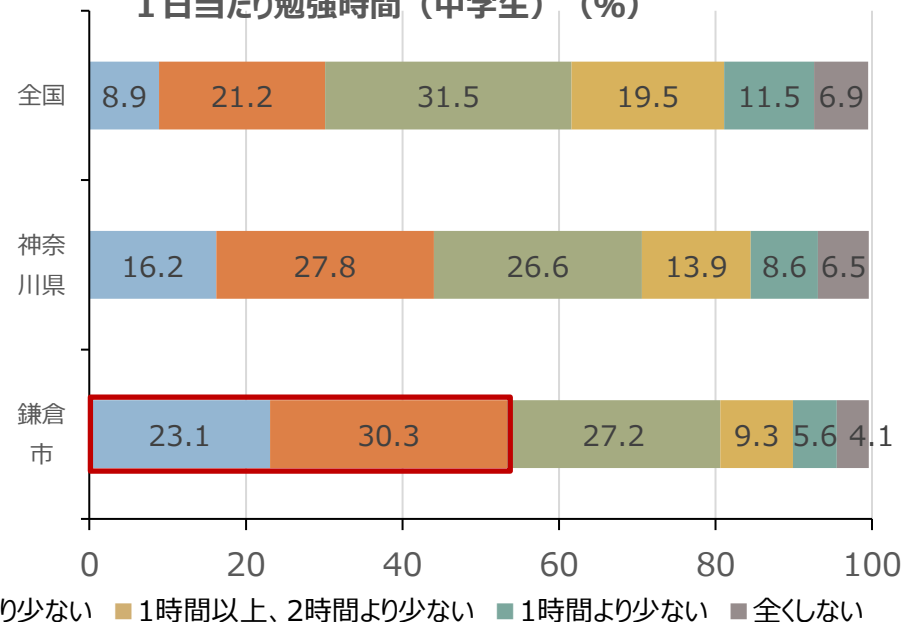
家庭での学習習慣の確立

- 小・中学校ともに、1日当たり3時間以上勉強している児童生徒の割合は全国・神奈川県と比較して高い。学習習慣が確立している点が窺える。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）の
1日当たり勉強時間（小学生）（%）



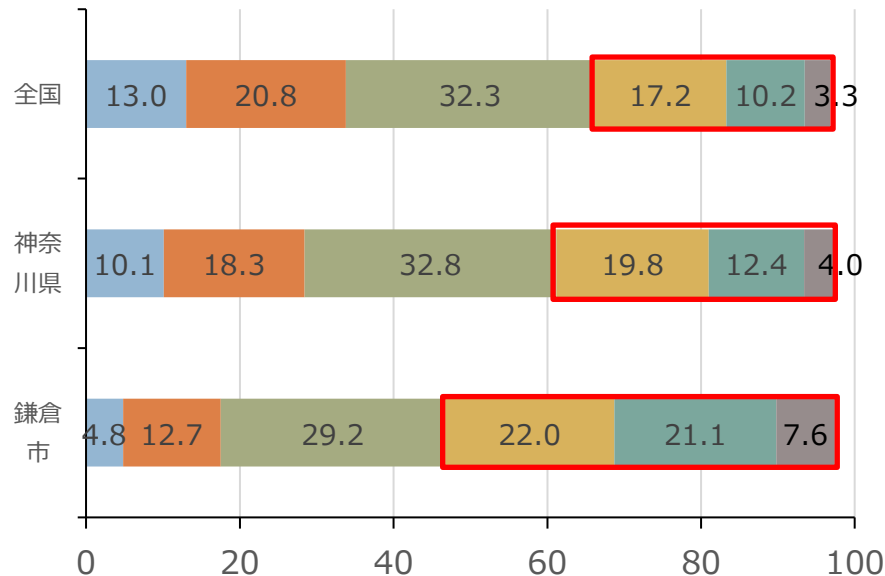
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）の
1日当たり勉強時間（中学生）（%）



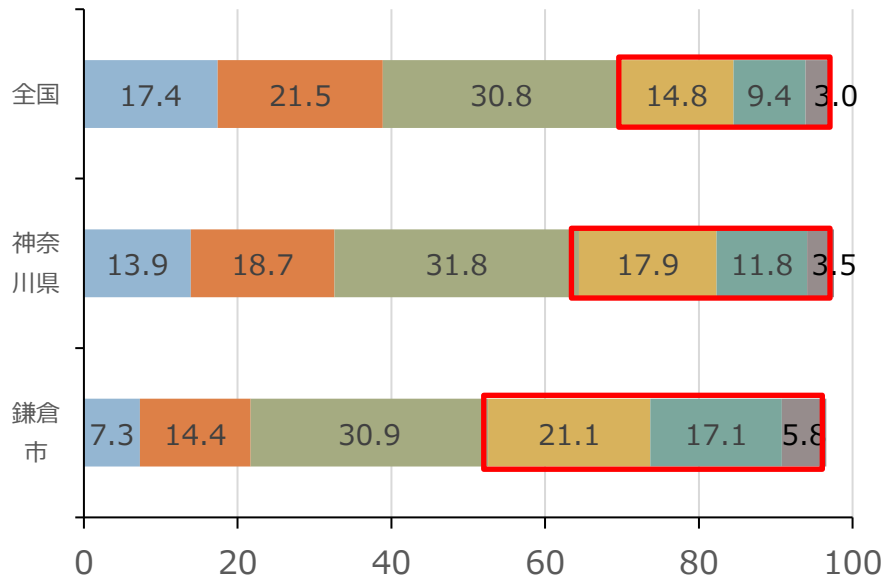
本と触れられる環境の充実

- 小・中学校ともに、家庭における本の冊数が「101～200冊」「201冊～500冊」「501冊以上」と回答した割合が神奈川県・全国と比較して多く、日頃から多くの本に触れていることが窺える。

小学校における家庭での保有本冊数（％）



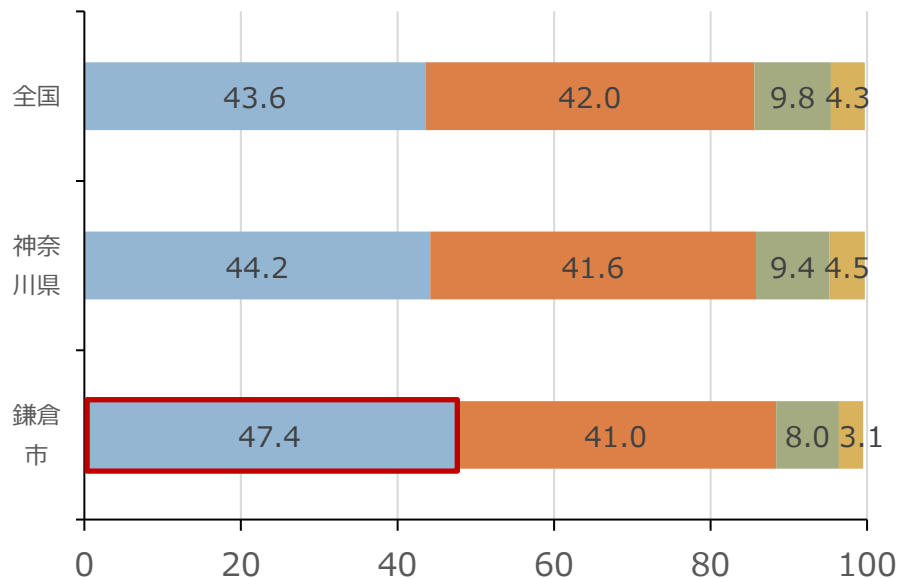
中学校における家庭での保有本冊数（％）



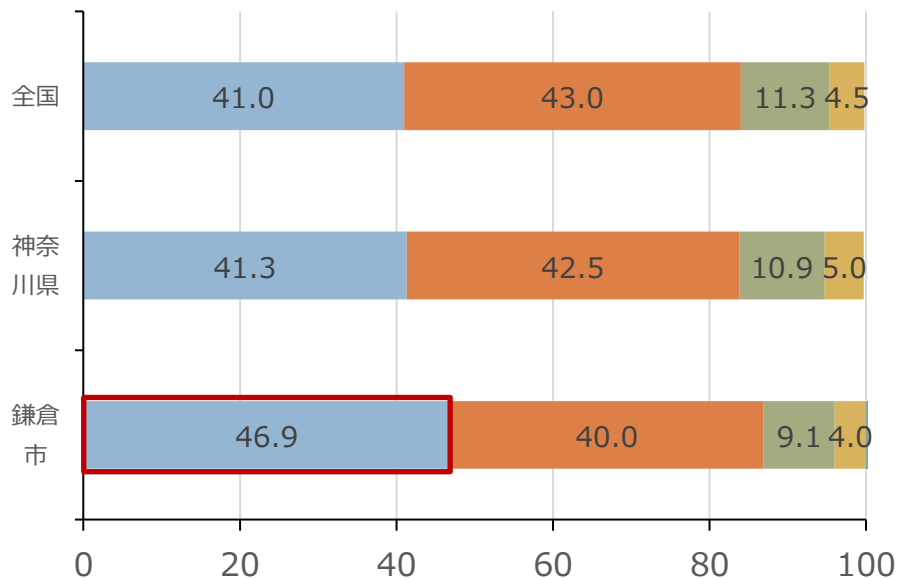
「自分にはよいところがある」と思う子ども

- 小中学校ともに、「自分にはよいところがある」に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は全国・神奈川県と比較して高い。

「自分にはよいところがある」と思う小学生の割合（％）



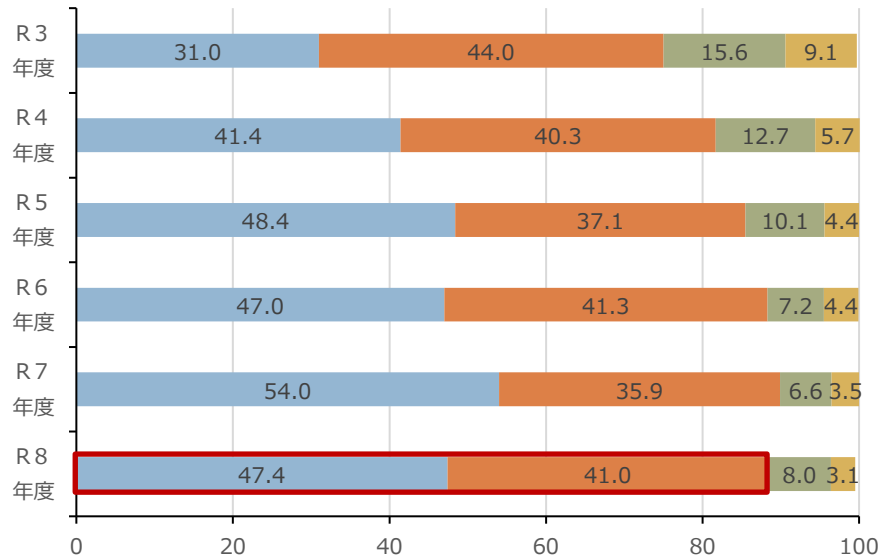
「自分にはよいところがある」と思う中学生の割合（％）



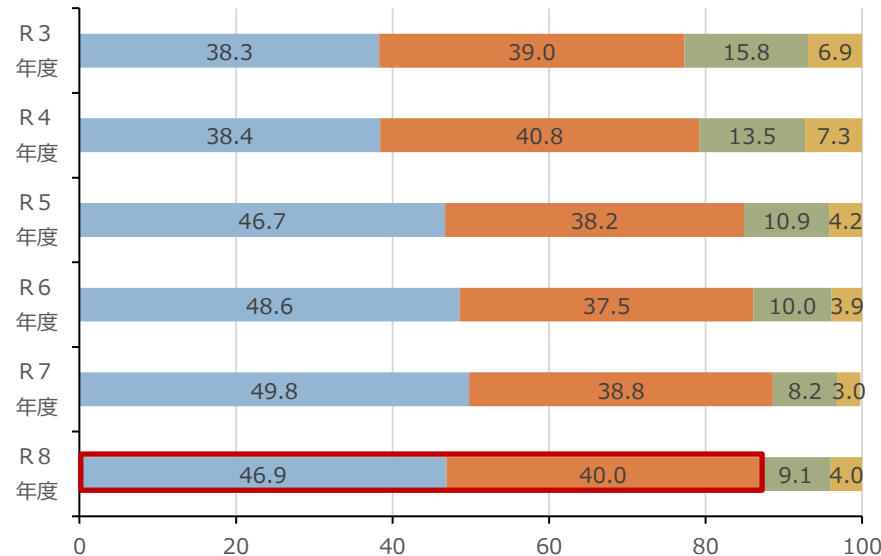
「自分にはよいところがある」と思う子ども（経年比較）

- 「自分にはよいところがある」に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、昨年度をやや下回った。引き続き、自己肯定感の向上につながる指導に努めたい。

「自分にはよいところがある」と思う小学生の割合（%）



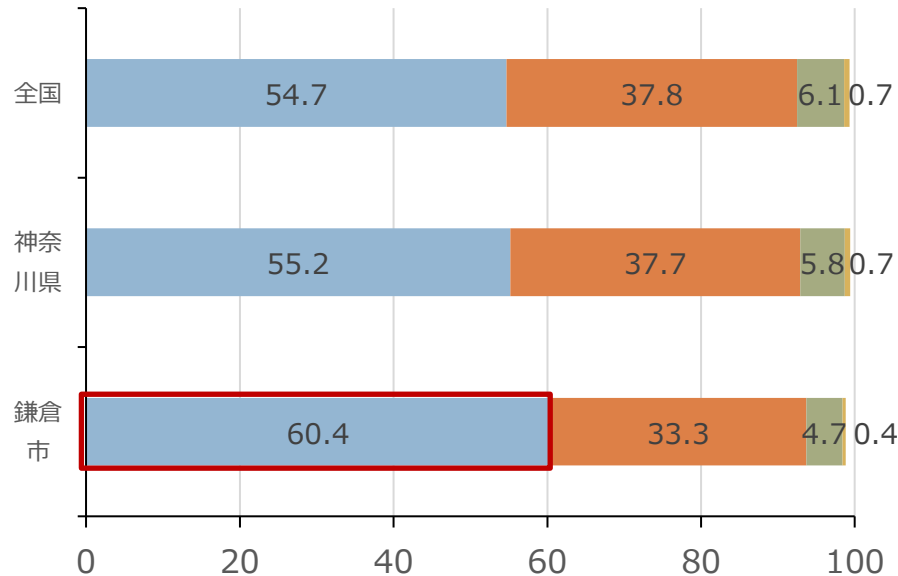
「自分にはよいところがある」と思う中学生の割合（%）



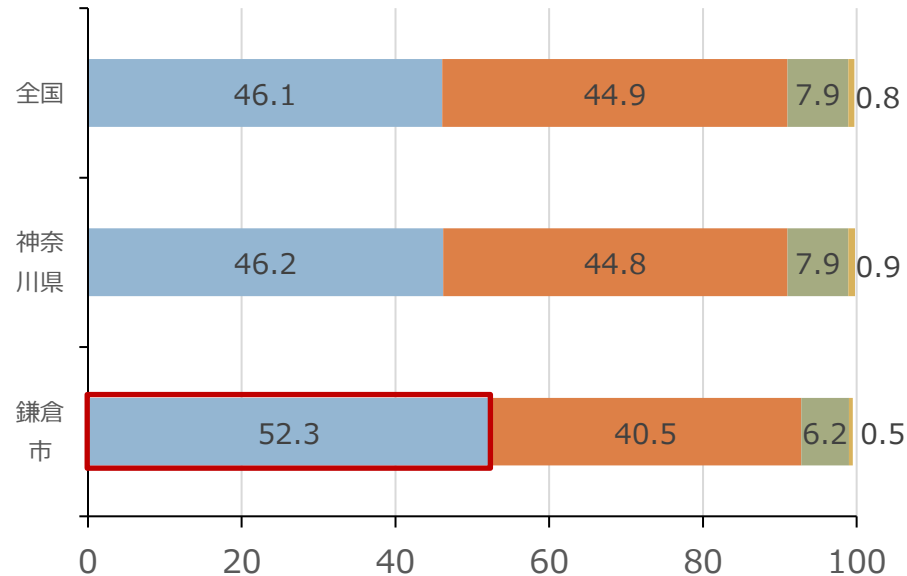
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあると答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国・神奈川県と比較して高い。
引き続き、家庭と協力しながら児童生徒が幸せな生活を送れるよう支援していきたい。

あると回答した児童の割合（％）（小学生）



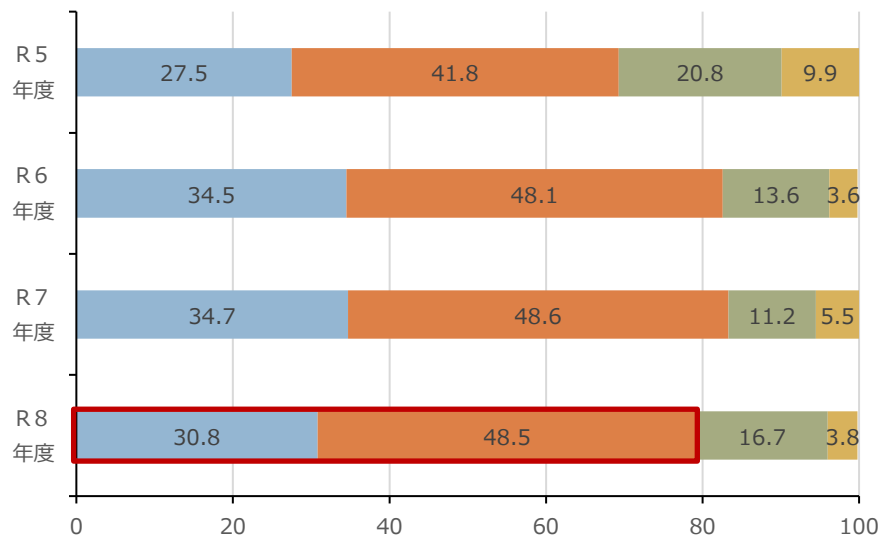
あると回答した生徒の割合（％）（中学生）



「地域や社会に貢献したい」と思う子どもの割合（経年比較）

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」に対して「当てはまる」「どちらかという」と当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、微減している。引き続き、地域に関する理解を深め、地域社会の一員として主体的に活動できる力を育む指導に努めたい。

「地域や社会に貢献したい」と思う小学生の割合（%）



「地域や社会に貢献したい」と思う中学生の割合（%）

